

平成19年3月25日の能登半島地震の発生を受け、4日後の29日より翌月一杯までの約一か月間、被災の程度が大きかった輪島市門前地区へ「こころのケア医療チーム」が派遣されました。その一員としての4日間、県内外の他の病院の方々とともに被災された方々に対する支援活動に携わって参りました。この名称が示す通り、突然の大きな災害を経験して心身ともに衝撃を受け、まだ強い動揺のさなかにいらつしやる方々に対し、その「こころ」の部分に主に目を向けて支援を行うのが私たちの仕事でした。避難所や被災された方のご自宅を回りお話を伺わせて戴く中では、相次ぐ余震、家や家財道具の損壊、慣れない避難所での生活、そういった思い通りにならない環境の中で、気が休まらず眠れないなどの不眠の症状の他、現状やまた将来に対する不安、希望が持てないような気持ち、頭の中が混乱して落ち着いて考えられないなど、深刻な現実が迫る中では出てきて当然の訴えがやはり多くの方から聞かれました。

能登半島地震こころのケアチームに参加して

心理療法センター 秋月 玲子

姿も多くの場面で見られ、こういつた既に出て来上がり普段から機能している強力なコミュニケーションの力、当事者同士が横で繋がり支え合っていく力が、厳しい現状を乗り越えていく一番の力になるのだと改めて感じました。その一つ一つのコミュニケーションを一番身近で支えるのが地元行政をはじめとする地域の支援者の方々であり、更にその本来は同じく被災を受けた立場である地域の支援者の方々のお手伝いを私達のような外部からの支援チームが担う、こういった幾つもの輪が重なった支援体制は、かなり早い段階で組み立てられていたような気がします。これは阪神・淡路、新潟中越と、過去の幾つもの大災害の経験から得られた知見やノウハウがうまく活かされて機能した結果だろうと思います。私達も今回の活動を通してまた学びを深め、日頃の地域医療を実践して行く中でこの経験を活かしていきたいと思えます。



こころのケア医療チーム先発隊
(医師2名、看護師、臨床心理士)

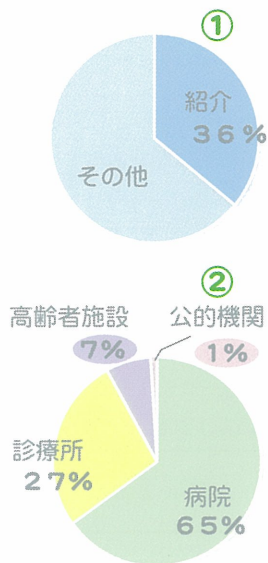
地域連携室 NEWS-4

紹介患者さまを多く紹介頂きありがとうございます

今年度も宜しくお願いいたします

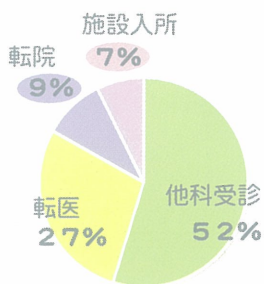
● 昨年度の紹介患者さま受け入れ実績

- ①平成18年度の新患者数は701名でそのうち252名の患者さまを紹介していただいております。
- ②平成18年度、「紹介いただいた患者さま」は558人で病院、診療所、高齢者使節、公的機関からの紹介を頂いております。また、当院で入院された患者さまは退院後「紹介頂いた医療機関へ通院を継続していただく」ように情報提供書をお送りしています。



● 昨年度の他医療機関への紹介患者さま実績

平成18年度、当院よりご紹介させて頂いた患者さまは508人で、転院や他診療科受診など地域の医療機関の皆様に対応していただいております。誠にありがとうございます。他医療機関等への紹介診療科については、様々な診療科にご紹介しております。



▼今後も、患者さまに満足して頂けるよう『サービスの向上』と、地域から信頼される医療機関を目指し『地域の医療機関・福祉機関の皆様とよりよい連携』のために努力して参りたいと思っております。ご不明な点があれば些細なことでもご相談いただけます。お待ちしております。

松原病院 地域連携室

〒920-8654
石川県金沢市石引4丁目3番5号
電話 (076) 231-4381(直通)
FAX (076) 231-4382
担当 ソーシャルワーカー 吉川 明弘

【受付時間】
月曜～金曜 9:00～17:00
☆受付時間外は下記へご連絡下さい
病院代表 (076) 231-4238

金沢くらしの博物館



改称セレモニーでの山出 金沢市長

松原病院の向かい側の緑に浮かぶ中学校旧校舎は金沢くらしの博物館です。主に金沢市民から寄贈された生活資料をはじめ、金沢の職人道具の数々、また戦後の生活の大きな変化を象徴する電化製品などを多数収蔵・展示しております。昭和53年に金沢市立民俗文化財展示館として開館された当館は、平成19年に金沢くらしの博物館と改称し、現在に至ります。石川県有形文化財の指定を受けているこの建物は、入り組んだ屋根、車寄せ、上げ下げ窓など、明治の洋風木造学校建築の様式を色濃く残している貴重な文化遺産といえます。また、一步足を踏み入ると、懐かしい道具類の数々が、当時の思い出とともに回想され、市民に親しまれています。

feature KANAZAWA

こころの処方箋

PTSD=外傷後ストレス障害：F43.1(ICD-10) について

松原病院 副院長 桃井 文夫

2007年5月10日付のメデイカル・トリビュン誌に、アメリカ合衆国カリフォルニア州スタンフォード大学小児思春期精神科のピクター・カリオン助教授が、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の症状を有する小児は記憶処理と情動にかかわる脳領域である海馬を損傷している可能性があることを Pediatrics (119:509-516, 2007) に発表したと掲載してありました。従来、PTSDの障害を持つ成人や動物モデルでは海馬の縮小が認められることは知られていましたが、小児において同じような知見を見出したのは、この研究が最初です。

PTSDの症状には悪夢、フラッシュバック、侵入的思考、回避、情動麻痺などがあり、過覚醒とそれに起因する安静時心拍数上昇などストレスへの身体反応も生じます。正常なレベルのストレスは脳の発達を刺激するために必要なのですが、このような過剰なレベルのストレスは、海馬の縮小を来し、記憶や認知の障害をもたらす、平均的な小児であれば到達できる社会的・知的・情動的な能力を発揮することが難しくなっており、成人になつてからうつ病や不安障害などを併発する可能性が高くなると言われています。

2007年3月25日午前9時42分に発生した能登半島地震から数ヶ月が経過しましたが、PTSDは外傷後数週から数ヶ月にわたる潜伏期間(6ヶ月を超えることは稀)を経て発症します。治療としては、抗不安薬や抗うつ薬を投与する薬物療法、外傷的経験を話して頂いたり傾聴したりする精神療法などがありますが、小児に対しては薬物の投与は慎重に行わねばなりませんし、精神療法においても海馬が縮小している小児にはなかなか外傷的経験について話して頂くのは難しいかも知れません。PTSDは比較的治疗困難で慢性化しやすいので、早期に診断し、注意深い治療を行うことが望まれます。